

## 研修報告書 No. 3

研修先： 嶺北中央病院

私の研修した嶺北中央病院は、嶺北地域のプライマリケア、包括医療を行う地域医療機関として、また救急病院・救護病院である病院としての2つの大きな機能を持った病院であった。当病院のこれら2つの側面それぞれに言及しながら、1ヶ月の研修を通して経験した事に基づいて、嶺北地域の地域医療についてまずは述べたい。

嶺北中央病院では、院内の診療に加え、在宅医療、診療所の運営も行っており、病院へのアクセスが難しい方を含めて、地域住民が取り残しなく医療を受けられる体制が整備されていた。加えて、遠方に住んでおり、体調不良時に車で来院できない人の社会的救急車の利用や、災害時に一時的に来院できなくなる事が予測される地域に住んでいる人への内服薬の長期処方など、診療における地域性を考慮した工夫が多く見受けられた。また、坂道が多い土地柄や、住宅環境、運転の必要性、職業（米農家が多いなど）などの患者さんの背景を考慮した理学・作業療法の提供やソーシャルワーカーさんの介入、医師が少ないからこそ、栄養士や言語聴覚士の方々が密に患者さんと関わり、退院後の生活を念頭においた細かな配慮や介入のある医療が印象的で、多職種連携の強さを実感した。

救急病院としては、重症の患者さんの高次医療機関への搬送や急性期治療の患者さんの自施設への転院搬送が円滑に行われ、高次医療機関とうまく連携が取れていると感じた。また、高知医療ネットなど、県内の救急搬送状況の可視化の取り組みは、この連携において極めて重要な役割を果たしていると感じた。救急診療という意味では、嶺北中央病院では、放射線技師や臨床検査技師の方が、24時間対応可能で、CT、MRIや検体検査も常時実施できる強みがある反面、実施した検査の解釈が、時には一人の医師に委ねられてしまうのがやや危うい部分であると感じた。医師全員で撮像された画像や心電図を確認する週一回のカンファレンスは、それをカバーするために、良い取り組みだと感じた。

研修内容に関しては、救急対応、内科外来、地域医療としての専門科外来の見学、外部診療所の見学など、多岐に渡る経験ができ、大変満足している。医師のみならず、看護師や医療スタッフの方々は非常に教育熱心で、今まで知らなかった現場の事情や、理解があやふやであった知識を改めて知り、整理する機会になった。胸部レントゲン写真を自分で撮像してみるなど、普段勤務している急性期病院では決してできない体験も多くさせていただいた。また、福利厚生もしっかりしており、困った時のサポートも手厚かった。唯一残念な点を挙げるとするならば、県外の研修医は、県内の研修医と比べて、院外研修の機会が少ない点である。県外から来ている研修医こそ、院外研修が多い方が良いのではないかと感じた。

今回の研修で得たものはこの報告書に記載しきれないほどたくさんある。リハビリテーション病院や療養型病院の実態、完治を目的とせず病気と上手に生きていく手助けをすることに重点を置いた診療、限られたリソースの中で診療を行う上で重要な多職種との密な連携など、地域医療研修だからこそ目の当たりにできたことが多くあった。そして何よりも、研修1ヶ月の中で、高知の自然、食事を堪能し、地域の人々と触れ合い、暖かさに触れた経験を通し、「心の豊かさ」の大切さを再確認できた気がしている。今後、どんな形であれ高知に貢献できる機会があれば、積極的に貢献していきたいと思う。